それぞれの思い

まちづくりには多くの意見が必要です
意見は年代や人によって違います
それぞれが思う選挙について話を聞きました

及川　麻衣（まい）さん（32）
米山町・粟ヶ崎

誰もが働ける環境の整備

選挙では、20歳から投票しています。最初は、あまり関心がなかったので、親に言われるがまま投票していました。結婚して子どもが生まれると、医療費や教育など子育て関連の施策に関心を持つようになりました。現在は、子育て関連に注目しながら投票しています。

私は事故で体に障がいがあり、長時間立ったり重い物を持ったりできません。現在、求職活動をしていますが、ハンデがあると選択肢が少なくなる厳しさを実感しています。どのような人でも働きやすい環境を整えてほしいです。

星　勘司（かんじ）さん（73）
迫町・坂戸

まちづくりは市民協働

教育、防災や道路整備に関心を持ち、投票しています。若い人たちの投票率の低下は、核家族化など家庭環境の変化もあると思います。昔は、家族だんらんで祖父母や両親が選挙の話をしましたが、そういうことがなくなってきたなと感じます。

投票した候補者が当選したからといって、頼ってばかりではよいまちづくりはできないと思います。有権者全ての意見を政治に反映させるのは難しいことです。政治でできないことを私たちがすることで、理想のまちを創れるのではないでしょうか。

後藤　星（あかり）さん（18）
登米町・遠見台

分かりやすく情報発信

選挙権年齢の引き下げは、高校の授業で知りました。年代に偏らない意見が多く出るのはいいことです。投票率を上げるためには、有権者に自分のことだと感じてもらうことが大切だと思います。そのためには、行政や候補者の考えをもっと分かりやすく伝えていく必要があると思います。

選挙運動のことは知りませんでした。ＳＮＳなどでインターネットを使った運動ができるということなので、１票では変わらないと思っている人にとっても、手軽に同じ考えの人を集めるきっかけになるのではないでしょうか。

若い世代の選挙について
市選挙管理委員会事務局に話を聞きました

高校生に続け。思い込めた一票

私たち市民が、共同体としての「登米市」を運営していくとき、一人一人の意見を直接反映する方法は、市民全員が参加した会議を開催することです。

しかし、登米市に暮らす18才以上の市民約7万人が、一堂に会して何かを決めることは、現実的には不可能であると思います。

それでは、どのようにして物事を決めていけばよいのでしょうか。考えられる方法は、市民それぞれの考えや思いを、代弁してくれる人を代表者として選び、代表者の会議によって大事なことを決めて行く方法です。その代表者を選ぶ行為が「選挙」です。

現在、代表民主制の根幹となる選挙の投票率が低下しています。昨年夏の参議院議員選挙は、有権者の年齢が18才以上となった初めての選挙となり大きな話題を集めました。しかし、登米市全体の投票率は約50パーセントでした。年代別には、60代が約70パーセント、20代が約30パーセントであり、年代が下がるに伴い、低い投票率になります。

このような状況の中、高校生の皆さんの投票率は62・5パーセントであり、勉強や部活動などで時間がない中でも、高い関心を持って投票してくれたことがうかがえます。

次代を担う高校生が、自らの意思で代表者を選び始めました。私たちの世代も、代表者を選ぶための大切な「一票」に、高校生の皆さんと一緒に思いを込めることにしましょう。

選挙管理委員会事務局
選挙係長　山形 敦（あつし）さん

インターネットを活用した選挙運動の例

選挙運動とは、候補者が当選するため、有権者に働きかけることです。
候補者でなくても18歳以上の人は選挙運動をすることができます。
2013年に公職選挙法が改正され、インターネット選挙運動が解禁されました。

禁止行為

- 有権者が電子メールを使って投票や応援の依頼をする
- 選挙運動用のホームページや候補者から届いた電子メールなどを印刷して頒布する
- 氏名などを偽ってインターネットを利用して通信する
- 選挙運動期間外に選挙運動をする
- 18歳未満の人が、選挙運動をする　など

可能な選挙運動

- 選挙運動メッセージを掲示板やブログなどに書く
- 選挙運動メッセージをＳＮＳなどで広める（リツイート、シェアなど）
- 選挙運動の様子を動画サイトなどに投稿する
- 友人や知人などに直接投票の依頼をする
- 電話で投票や応援の依頼をする

今こそ意識の改革を

近代日本の繁栄は、多くの先人たちや若い頃のシルバー世代が一生懸命に築いてきた財産です。現在の若い世代は、特に意識することもなく、その恩恵にあずかってきたとも言えます。

月日がたてば、若い世代もシルバー世代。その時になって、こんな未来は望んでいなかったと声を上げても手遅れです。今から政治に関心を持ち、私たちの代表である首長や議員などと意見を交わしていくことができれば、そのような事にはならないかもしれません。

地域コミュニティーも高齢化が進んでいます。しかし、そこがあなたの声を直接伝えることができる場所であり機会ではないでしょうか。

重要なのは、選挙制度の改革ではなく、日常の意識の改革です。

ここから声を上げること。そして、その声を「一票」に代えて投じていくことが、本市の明るいまちづくりの第一歩となり、未来につながっていくのではないでしょうか。